



当期は事業構造改革による損益改善により純利益は大幅増益

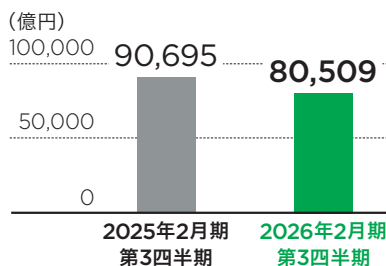
連結業績

(2025年3月1日～2025年11月30日)

営業収益

8兆509億円

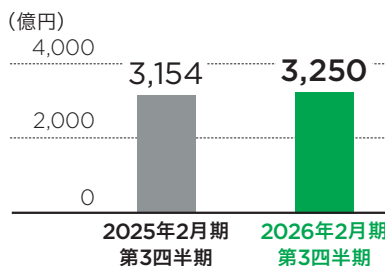
前期比 88.8% 計画比 99.0%



営業利益

3,250億円

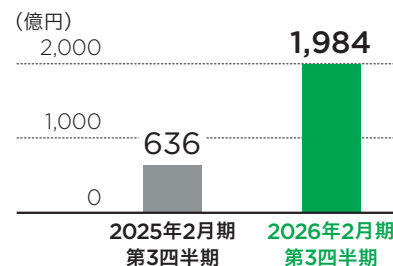
前期比 103.1% 計画比 101.6%



親会社株主に帰属する四半期純利益

1,984億円

前期比 311.9% 計画比 106.6%



注) 為替換算レート: U.S. \$1=148.08円 1円=20.50円

当第3四半期の経営成績の概況

(2025年3月1日～2025年11月30日)

■ 第3四半期業績概況

当該期間における営業収益は、ヨーク・ホールディングス傘下の子会社とセブン銀行の非連結化による影響のほか、海外CVS事業におけるガソリンの小売単価下落の影響などにより減収となりました。営業利益は、上期まで連結していたヨーク・ホールディングス傘下の子会社の増益に加え、セブン-イレブン・ジャパンが第3四半期に増益に転じたことなどにより増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別損益の改善により大幅な増益となりました。

国内コンビニエンスストア事業

セブン-イレブン・ジャパンでは、既存店売上が前年同期を上まわった一方、原材料価格高騰により荒利率が低下、物価上昇の影響などにより販管費が増加したことで、営業利益は1,782億円(前年同期比97.5%)となりました。

なお、当第3四半期の3カ月間は、共創型マーケティングによる商品開発・販売強化に取り組み、既存店売上は前年同期を上まわり、荒利率は前年同期並みに回復したことなどにより、営業利益は増益となりました。

海外コンビニエンスストア事業

北米の7-Eleven, Inc. では、主にガソリン市況の影響により、営業利益(のれん償却前)は2,359億円(同97.3%)となりました。

なお、当第3四半期の3カ月間は、フレッシュフードを中心としたバリューオファー施策などにより客単価が前年同期を上まわり、客数減少の影響をカバーしたことにより既存店商品売上は前年同期を上まわりました。

2026年2月期連結業績予想 (2026年1月8日修正)

バランスシートマネジメントの効果が発現し、保有資産の適正化に加え、ヨーク・ホールディングスの持分法適用会社化に関する純利益インパクトが高まったことなどにより、当期純利益を上方修正し、2,700億円としました。また、1株当たり当期純利益は109.57円を見込んでおります。

	金額	前年比	修正額
営業収益	10兆5,600億円	88.2%	—
営業利益	4,040億円	96.0%	—
親会社株主に帰属する当期純利益	2,700億円	156.0%	+50億円
1株当たり当期純利益	109.57円	164.5%	+1.91円